

Local time penalizations with various clocks for Lévy processes

武田 翔成（京都大学理学研究科）
矢野 孝次 氏（京都大学理学研究科）との共同研究

(X, \mathbb{P}_x) を $X_0 = x$ となる 1 次元 Lévy 過程とし, (\mathcal{F}_t) をそのフィルトレーションとする. さらに L を 0 における局所時間 (local time) とする. この下で, 以下のような極限の問題を考える. これを局所時間の**処罰問題** (penalization problem) という:

$$\lim_{\tau \rightarrow \infty} \frac{\mathbb{P}_x[F_\tau f(L_\tau)]}{\mathbb{P}_x[f(L_\tau)]} = \mathbb{Q}_x[F_\tau]. \quad (0.1)$$

ただし, \mathbb{Q}_x は極限で得られる確率測度, $\mathbb{P}_x[\cdot], \mathbb{Q}_x[\cdot]$ は期待値の意味であり, F_t は \mathcal{F}_t -可測な有界汎関数, f は $\int_0^\infty f(x) dx < \infty$ となる非負関数である (以下これを $f \in \mathcal{L}_+^1$ とあらわす). さらに τ は ∞ に発散するランダム時刻の有向族である. これを**時計 (clock)** という.

定数時計に対する処罰問題の研究は, ブラウン運動に対して Roynette–Vallois–Yor [2, 3] にはじまり, 対称安定過程に対して Yano–Yano–Yor [5] で調べられた. Profeta–Yano–Yano [1] は 1 次元拡散過程に対し, ランダム時計の処罰問題を調べた. 本講演では, 論文 [4] に基づき, 非対称な 1 次元 Lévy 過程に対して, ランダム時計の局所時間処罰問題の結果を紹介する.

特性関数の指数 $\Psi(\lambda)$ を $\mathbb{P}_0[e^{i\lambda X_t}] = e^{-t\Psi(\lambda)}$ で定義する. このとき, 定数 $v \in \mathbb{R}$, $\sigma \geq 0$ と $\int_{\mathbb{R}} (1 \wedge x^2) \nu(dx) < \infty$ をみたす $\mathbb{R} \setminus \{0\}$ 上の Lévy 測度 ν が存在して,

$$\Psi(\lambda) = iv\lambda + \frac{1}{2}\sigma^2\lambda^2 + \int_{\mathbb{R}} (1 - e^{i\lambda x} + i\lambda x 1_{|x|<1}) \nu(dx) \quad (0.2)$$

と表せる. 本講演では, 常に以下を仮定する.

仮定. X は再帰的 (recurrent) であり, かつ任意の $q > 0$ に対して,

$$\int_0^\infty \left| \frac{1}{q + \Psi(\lambda)} \right| d\lambda < \infty \quad (0.3)$$

が成立する.

このとき, q -レゾルベント密度 $r_q(x)$ が存在し,

$$r_q(x) = \frac{1}{\pi} \int_0^\infty \operatorname{Re} \left(\frac{e^{-i\lambda x}}{q + \Psi(\lambda)} \right) d\lambda. \quad (0.4)$$

となることが知られている. $h_q(x) = r_q(0) - r_q(-x)$ と定義すると, 以下が成立する.

定理 1. $h(x) := \lim_{q \rightarrow 0+} h_q(x)$ は $x \in \mathbb{R}$ で存在して有限値.

次の記号を定義する:

$$m^2 = \mathbb{P}[X_1^2] = \sigma^2 + \int_{\mathbb{R}} x^2 \nu(dx) \in (0, \infty], \quad (0.5)$$

$$h^{(\gamma)}(x) = h(x) + \frac{\gamma}{m^2} x, \quad (0.6)$$

$$M_t^{(\gamma, f)} = h^{(\gamma)}(X_t) f(L_t) + \int_0^\infty f(L_t + u) du. \quad (0.7)$$

ただし $-1 \leq \gamma \leq 1$, $f \in \mathcal{L}_+^1$ とする. $m^2 = \infty$ のときは, γ による違いが生じないことに注意する. このとき, $h^{(\gamma)} \geq 0$ であり, $M_t^{(\gamma, f)}$ は非負のマルチンゲールとなることが示せる.

ここでは, ランダム時計を指数時計・到達時計・2点到達時計にしたときの, 処罰問題の結果を述べる.

定理 2 (指数時計による結果). e_q を平均 $1/q$ の独立な指数分布, $f \in \mathcal{L}_+^1$ とすると,

$$M_t^q := r_q(0) \mathbb{P}_x[f(L_{e_q}) | \mathcal{F}_t] \xrightarrow{q \rightarrow 0^+} M_t^{(0, f)} \quad (0.8)$$

が \mathbb{P}_x -a.s. かつ $\mathcal{L}^1(\mathbb{P}_x)$ で成立する.

これにより処罰問題の結果が得られる. 実際, $\mathbb{P}_x(M_0^{(0, f)} > 0) = 1$ とすると, \mathcal{F}_t -可測な有界汎関数 F_t に対して,

$$\lim_{q \rightarrow 0^+} \frac{\mathbb{P}_x[F_t f(L_{e_q})]}{\mathbb{P}_x[f(L_{e_q})]} = \mathbb{P}_x \left[F_t \frac{M_t^{(0, f)}}{M_0^{(0, f)}} \right] \quad (0.9)$$

が成立するからである. 以下についても同じであるから, この形で述べるのは省略する.

定理 3 (到達時計による結果). $T_a = \inf\{t > 0: X_t = a\}$, $h^B(a) = \mathbb{P}_0[L_{T_a}]$ とする. このとき,

$$M_t^a := h^B(a) \mathbb{P}_x[f(L_{T_a}) | \mathcal{F}_t] \xrightarrow{a \rightarrow \pm\infty} M_t^{(\pm 1, f)} \quad (0.10)$$

が \mathbb{P}_x -a.s. かつ $\mathcal{L}^1(\mathbb{P}_x)$ で成立する.

定理 4 (2点到達時計による結果). $T_{a,b} = T_a \wedge T_b$ とする. さらに, $0 < p < 1$, $q = 1 - p$, $\gamma = p - q$, $h^C(a, b) = \mathbb{P}[L_{T_{a,b}}]$ とする. このとき,

$$M_t^{p, a} := h^C(pa, -qa) \mathbb{P}_x[f(L_{p a, -q a}) | \mathcal{F}_t] \xrightarrow{a \rightarrow \infty} M_t^{(\gamma, f)} \quad (0.11)$$

が \mathbb{P}_x -a.s. かつ $\mathcal{L}^1(\mathbb{P}_x)$ で成立する.

これらの定理から, $m^2 < \infty$ のときは, ランダム時計の選び方によって, 極限の確率測度が異なるのが分かる.

参考文献

- [1] C. Profeta, K. Yano, and Y. Yano. Local time penalizations with various clocks for one-dimensional diffusions. *J. Math. Soc. Japan*, 71(1):203–233, 2019.
- [2] B. Roynette, P. Vallois, and M. Yor. Limiting laws associated with Brownian motion perturbed by its maximum, minimum and local time. II. *Studia Sci. Math. Hungar.*, 43(3):295–360, 2006.
- [3] B. Roynette and M. Yor. *Penalising Brownian paths*, volume 1969 of *Lecture Notes in Mathematics*. Springer-Verlag, Berlin, 2009.
- [4] S. Takeda and K. Yano. Local time penalizations with various clocks for Lévy processes. In preparation, 2021.
- [5] K. Yano, Y. Yano, and M. Yor. Penalising symmetric stable Lévy paths. *J. Math. Soc. Japan*, 61(3):757–798, 2009.